

## 【防災・防犯】

### 45．急傾斜地の対策について

Q：木次町26区地内の急傾斜地の要望について回答をいただきたい。

A：急傾斜地については、採択するとのことであり今後調査が進められる予定です。（木次総合センター）

### 46．自主防災組織の育成について

Q：昨年の豪雨を教訓に、各自治会にロープ、土のう袋を準備しています。市内でも自主防災組織を育成するそうですが、立上げについて助言をお願いします。

A：今年3月に雲南市防災計画を策定しました。この中に自主防災組織をつくっていただくことを掲げています。地域自主組織の中に防災関係の部を設けていただきたい。木次町斐伊地区では、地域自主組織が中心となり、市と合同の避難訓練を実施されました。市が出した指令に対する、地元での対応方法を協議・確認しました。自主的な取り組みが実っている事例です。

地域自主組織の取り組みの広がりが、安心・安全なまちづくり推進への大きな力となると考えております。（総務部）

### 47．火災発生時の居住者の確認について

Q：市営住宅で火災が発生した際、居住者の確認はどのようにされていますか。

A：火災が起きたときは住宅管理の担当課が入居者の名前等を確認します。（大東総合センター）

### 48．火災発生時等の告知について

Q：日登で先日火災がありました。消防署からは「建物火災」とだけ放送があり、あとは情報が入りませんでした。住民としては大変不安な思いをします。災害・火災時の連絡体制についての考えを伺います。

A：現在有線テレビ等の機構改革を徐々に進めています。

また昨年の豪雨災害を教訓に通信・連絡体制を強化しています。（影山副市長）

火災発生の際、第一報として雲南消防署が発生地区を放送します。その後、現地で詳しい状況を確認し、詳細を放送することになっています。今回の件については、道路からかなり入ったところでの発生であり、すぐに状況を把握することが困難でした。今後は、的確な情報を流すよう努めていきたいと考えています。（木次総合センター）

### 49．消防団員の確保について

Q：主要施策に「防災」についての記載がありませんが、各種団体・ボランティア団体等

において防災に関する取り組みがされています。たとえば消防団員をたくさん配置し、市の安全確保に貢献している業者を表彰するなど、市民の取り組みに対し、きちんとした評価をしてください。

また、消防団では、団員確保に苦勞されている。民間企業に依頼するなど、市が率先して団員確保に努めてください。

A：決して評価が低いということではありません。国においても団員確保に協力した事業所に対する表彰や消防団協力事業所表示マークの授与などが行われ、社会的に評価されています。

消防団員確保の問題については、どの地域も抱えるもので、団の編成ができないところもあります。方面隊と連携を図りながら事業所に要請していきます。地域においても、自主的な防災組織が結成されてきています。今後もそうした取り組みを推進し、消防活動に対する地域の理解を得ながら団員確保に努めたい考えです。(総務部)

## 50：消防団員の確保について

Q：佐世地区では自治会と消防団とが一体になり団員確保に努めています。しかし、なかなか確保が難しい状況です。入団を断る理由としては、「家庭サービスができない。」「職場の上司の許可が必要。」「定時退社できない。」「職場で給与はどこからもらっているのかと言われる。」などがあります。

A：現在、団員確保の問題については、意識の高揚を図る意外に有効な手段がない状況です。

今後も、地域防災組織づくりを進めるなかで、消防団員確保への協力を粘り強く要請していきます。

また、雇用主の理解については、消防団協力事業所として、認定・表彰し会社のイメージアップにつなげる国の制度があります。こうした制度も研究・活用しながら、事業所の協力を求めていく必要があると考えています。(総務部)